

令和3年度 江戸川区立平井西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい子 ・じょうぶな体 ・よく考える子 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・「明日も楽しみ、学校大好き」と言える「笑顔の学校」 ・「進んであいさつする子 命を大切にする子 思いやりのある子」「外で元気に遊ぶ子 よく食べよく眠る子」「自ら学び、考え、表現する子」 ・創造的で協働する教職員集団「チーム平井西」
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> コロナ禍における教育活動において、54本の動画制作ならびに西リンピック、社会科見学や宿泊行事に代わる代替行事等の新しい取組を行うことができた。 <課題> 外国語教育の指導をはじめとする新しい授業の在り方を、一人一台端末の活用とともにさぐっていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級での補習年35回以上の実施。 ・抽出児童対象の外部講師による放課後補習教室の実施。 ・週に1度の朝の学習「計算タイム」を活用したペースドリルの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級での補習年35回以上の実施。 ・抽出児童対象の外部講師による放課後補習教室の実施。 ・週に1度の朝の学習「計算タイム」を活用したペースドリルの実施。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシック診断テストにおいて1学期から2学期にかけて正答率の向上が見られた。継続的な取組の成果が表れている。 ●放課後補習教室の外部講師との連携をさらに深め、充実した指導につなげていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 業者導入による成果の診断をしっかりと行ってもらいたい。改善点を明らかにして次年度につなげてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査や東京ベーシック診断テストの結果を受けて、明らかになった課題について、ポイントを絞った指導計画を立てる。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の読書月間。 ・年間を通しての本に親しむための取り組みの実施。（リーディングパディ、読書郵便、読書ピクニック） ・図書館スーパーバイザーによる、図書館活用を目的とした授業の実施。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の読書月間。 ・年間を通しての本に親しむための取り組みの実施。（リーディングパディ、読書郵便、読書ピクニック） ・図書館スーパーバイザーによる、図書館活用を目的とした授業の実施。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館全体の蔵書の整理と本棚の配置改善を行い、使いやすい環境になった。 ○読書郵便の取り組みを通して、読書により親しむ活動をすすめた。 ●調べ学習で使っているが、学習センターとしての学校図書館活用のさらなる推進が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> バーコードによる蔵書管理や学校図書館司書の全校配置を望む。 読書の機会が増えるような取り組みの工夫をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館スーパーバイザーと連携して、学校図書館の整備と、読書科の授業でのさらなる活用方法を検討する。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた運動遊び（ワケウタイム）の実施。 ・持久走タイムなどの充実。 ・なわとび月間の実施、長縄集会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた運動遊び（ワケウタイム）の実施。 ・持久走タイムなどの充実。 ・なわとび月間の実施、長縄集会の実施。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びなど、計画的に実施している。 ●新型コロナウイルスの感染状況に応じた、取組方法の工夫を検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの運動の機会の減少を耳にする。安全に実施できる工夫を行うことで、運動の機会を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を十分に行った上で、取組可能な内容を検討・実施していく。
	オリパラ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとのオリ・パラ授業の実施。 ・オリ・パラ掲示板の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとのオリ・パラ授業の実施。 ・オリ・パラ掲示板の充実。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間4回の体験的な活動と学習用タブレットを併用した取組を実施した。 ●学校HPや掲示板の更新を、進めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HP等で、体験的な学習の積み重ねが、効果を生んでいる印象を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ選手との交流を中心に、掲示物として記録を残していく。
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上とALTの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常からの「クラスルームイングリッシュ」の積極的な活用 ・授業で使える歌などの校内研修の実施 ・年に3回のALTと連携した、外国語集会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常からの「クラスルームイングリッシュ」の積極的な活用 ・授業で使える歌などの校内研修の実施 ・年に3回のALTと連携した、外国語集会の実施。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○担任とALTとの打ち合わせの時間を確保し、役割分担することで、効果的な授業を進めることができた。 ●児童が主体的に取り組むようになるような授業を考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPや外国語の研究発表等を通して、児童が楽しく外国語の学習に取り組んでいる様子が見えてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果を基に、次年度以降の取組みに生かしていく。
	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ問題を0% ・QUTテスト、居心地のよい学級とする児童90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ問題を0% ・QUTテスト、居心地のよい学級とする児童90%以上。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○週に1度の生活指導委員会を中心に、学年や学校全体で共通理解を図りながら、素早い対応を心がけている。 ●継続して注意深く様子を見ていくことが重要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見と不登校傾向児童に対する適切な対応を学校全体で今後も継続して行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向児童との、オンライン授業を推進する。 情報モラル教育を通して、児童の健全育成を目指す。
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1度のおおざり学級での個別の指導と、在籍学級の担任との情報共有の実施。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1度のおおざり学級での個別の指導と、在籍学級の担任との情報共有の実施。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別に指導を実施した上で、個の指導内容の充実につなげるため、週に1度、定期的な情報共有を行った。 ●直接接する機会をもつことが難しい不登校傾向の児童に対して巡回指導員や特別支援教室専門員、SSW等と連携して適切な手立てを講じていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人に寄り添った教育を行っていただいている。引き続き、個に応じた指導について検討し、児童一人一人にあった手立てを考えていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任だけでなく、通級の指導員やSC、SSW、心理士など様々な視点からの助言を基に、具体的な手立てを検討していく。 	
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTスキルアップによる校内研修3回の実施。 ・情報リーダーを中心とした月に1度の校内ICT研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修参加率100%。 ・算数のデジタル教科書活用率100%。 ・授業等でのTeamsの活用100%。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の研修参加率は100%であった。 ○デジタル教科書、Teamsの活用は100%であった。 ●各学級での取組内容に差が見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を有効に活用した取組がなされている。時代感覚に合った教育がされていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度を目安に、定期的な情報共有の場を設け、共通理解を図る。 	
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の小中連携の実施。 ・教員研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小6が中学校訪問をしての児童生徒交流を年1回以上実施。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校・中学校それぞれの授業参観を通して、教員同士の交流を実施した。 ●児童・生徒間での直接の交流は難しかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であっても実現可能な方策を探った取り組みを次年度は期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科の「連携プログラム」を基にした互いに無理のない実践を継続していく。